

## 町内古民家 位置図



益城町文化財保護委員長  
ヘリテージマネージャー  
松野陽子さん(市ノ後団地)

価値あるものを残し  
宝として守っていく

熊本県近代和風建築総合調査で町内各地の古民家を調査しましたが、調査した古民家の多くが熊本地震で被害を受け、解体されてしまいました。中には修復すれば住むことができたものもあり、価値あるものがなくなるのを少しでも防ぎたいと思いました。

古民家の修復にはかなりの費用が掛かるため、所有者の熱意がなければ実現しません。残したいと願う所有者の思いをかたちにするため、自分にできることはないかと町や県の補助を探したり、要望したりしました。県が古民家の修復も補助すると発表された時はとてもうれしかったです。

町内に残る8軒の建物は個人の財産ではありますが、地域の宝として守っていくことができればと思っています。

ヘリテージマネージャー(地域歴史文化遺産保全活用推進員)とは

社会的に認められた建築の専門家(建築士など)で、さらに歴史文化遺産の保全活用の手法を修得した人のこと。県内では(社)熊本県建築士会が実施する「熊本県ヘリテージマネージャー養成講習会」(60時間)を修了し、(社)熊本県建築士会に登録された人をいい、地域に眠る歴史文化遺産を発見し、保全し、活用し、地域づくりに貢献することを目指しています。

## 古民家活用 これまでの歩み

平成27(2015)年7月  
熊本県近代和風建築総合調査

近代和風建築の所在状況と重要遺構を把握することを目的に、文化庁が平成4年度から全国で順次着手している「近代和風建築総合調査」の一環。

本町では、教育委員会から各地区の嘱託員に照会し、約130軒の建築物が調査対象となった。

平成28(2016)年4月  
熊本地震発生

2度にわたる震度7の地震により、多くの建築物が被災。調査した130軒もほとんどが失われた。

平成29(2017)年9月  
古民家復旧が県の補助対象に

古民家の復旧工事が「平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金」の補助対象となり、本町から8軒の古民家が申請。

平成31(2019)年2月  
8軒の古民家所有者の会設立

復旧や今後の活用について情報交換をする場として、所有者の会を設立。

令和4(2022)年3月  
林家主屋が登録有形文化財に

国の文化財登録制度により、林家住宅主屋が本町初の登録有形文化財(建造物)に。他7軒も登録を目指している。